



西牧野小だより

7月
4号

枚方市立西牧野小学校通信

TEL 050-7102-9116

FAX 072-851-0035

令和8年7月1日

校長 青木 智充

学びの景色を変えていく ～「壁」を払い、「広場」で育む子どもの可能性～

本校では現在、これまでの学校の「当たり前」を問い直し、子どもたち一人ひとりが主役となる新しい学びのあり方を模索しています。そのキーワードが、「教室から教場へ」「壁から広場へ」「教える人から環境を整える人へ」「統制から創生へ」という4つの転換です。



これらは単なる「学校のシステム変更」ではありません。これまで学校や教師が効率性のために前提としてきた「合理性」を一度俯瞰し、本当に子どもの可能性を中心に据え直すための、大きな挑戦（パラダイムシフト）です。

1. 「学級の空気」に合わせることから、多様な選択肢へ

従来の「1学級1担任制」には、一つのクラスをまとめる自治の力がある反面、どうしても担任教師一人の価値観や好みが見えない形で「学級の空気」となり、子どもたちに強い影響を与えがちでした。子どもがその「空気」に自分を合わせようと無理をしてしまうことも少なくありません。

私たちが進める「新しい学び」は、教師の価値観を相対化し、子どもの選択肢を広げるための仕組みです。複数の目で子どもたちを見守ることで、一人の教師と固定されたマッチングに縛られることなく、「この先生なら話しやすい」「この場所なら安心できる」という選択肢を子ども自身が見出せるようにしていきます。

2. 固定された「壁」が奪うもの

「学級の壁」「時間割の壁」「評価の壁」……学校には多くの目に見えない壁が存在します。これらを安定して維持すること自体が目的になってしまうと、そこには「その壁がなければ生まれたはずの、豊かな学びの機会（オポチュニティコスト）」が失われるというリスクがあります。

私たちは、これらの境界や区切りを取り払い、つながりを生み出す「広場」のような学校を目指します。本を読みふける子、自然と関わる子、実験に打ち込む子、じっくり自分のペースで取り組む子。それぞれが、自分の「好き」や「やりたい」を認められ、固定化されない環境の中でこそ、本当の主体性が育まれると信じているからです。

3. 教師は「教える人」から「環境を整える人」へ

これからの時代、教師の役割は、子どもを指導の対象として捉え、自分たちの枠組みに「合わせる」ことを求めることではありません。

教師は「教える人」ではなく、「環境を整える人」へと変わります。子どもたちが自ら問いを立て、友

達と語り合い、体験を通して学びを創り出していけるような、安心して刺激に満ちた「環境」をデザインすることが私たちの新しい使命です。

学校を管理や統制の場所から、新しい価値を「創生」する場へ。

子どもも大人も、ともに学び合い、創り合う。そんな「多様性の包摂を実現する学びの広場」を、保護者の皆様、地域の皆様とともに築いていきたいと考えています。

今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

熱中症に注意を！！



今年度は6月中比較的涼しく過ごしやすい、中休みや昼休みには、運動場で元気に遊ぶみなさんの姿が見られます。7月中には梅雨が明け、真夏の暑さになります。熱中症にはより一層注意してください。常に水筒を準備して、こまめに水分を取るようにしましょう。絶対に無理はせず、適宜休憩しましょう。また、十分な睡眠や食事をとり、規則正しい生活を送って、暑さに負けない体力をつけてください。

水分は多めに持ってきてください。それでも不足してしまった場合は、職員室に水筒を持ってきてください。夏の間はウォーターサーバーを設置していますので、補給します。

みんな元気にこの長い暑い夏を乗り切りましょう！！